

張である。このことは、国粹的とか、史的興味とかいうことではなく、ヨーロッパや、あの新しいアメリカでも、美術館に極く古い古美術のコレクションなどが陳列してあり特に子供のために、その鑑賞に意を用いられてあるのを見た時から深く感じていたことがある。キングドープックのような雑誌で、それを試みるのは野心すぎるかとも思い、又、その号のテーマ次第によつてと思つて、容易にその機会がなかつたのだが、この号では遅疑するところなく、この宿望を実行してみたのである。広くは皆さんに御議論のあるかもしれないが、若し、古いものは子供に分らんといい御意

見だつたら、よき芸術品に限り、決してそうではないと、私は主張する。勿論、幼年絵本は昔の絵草紙を、おぼあさまの古つゞらから出して貰つたようなものでいゝというのではない。しかし、絵柄さえ不適当でなければ、おぢいさまのお床の間の掛軸の中にも、孫に見せたいものがあつて不思議はないと思うのである。そして、子供は案外あの可愛い目で鑑賞する。少くも鑑賞の素地を養われると思つたのである。幼児絵本のために新しい試みをしたに就いて念の爲一言。

私 と 浮 世 絵

山 田 徳 兵 衛

私は、おもちゃや、人形のことを調べるため、それらに関する浮世絵を、眼に入るたびに手に入れたが、それがいつの間にか五六百枚貯つてしまつた。

先ごろの戦災で、大分いろいろなものを焼いたが、この浮世絵だけは田舎へ預けてあつたので、幸い助かつた。

実際、おもちゃや、人形などというものは、専門に書かれた文献が殆ど無いので、つい百年か二百年前のものを調べるのにも、偶然にそれらを手に持つている人物の浮世絵などを漁らなくてはならない不便がある。尤も、これは、浮世絵に限つたわけでもないが、浮世絵は、多く色彩があ

るので非常に役に立つのである。

従つて、私の所蔵の浮世絵というものは、絵のよしあしとは一応別な見方で集めたものだから、五六百枚というとはかに多いようだが、世間的には、つぶしのきかない代物ばかりなのである。

◇ そんなわけで、私は決して浮世絵通でもなんでもないのだが、或る不思議なチャンスによつて、浮世絵の各作家の描く顔立ちだけは大体覚えてしまつた。

これは、まことにおかしな話だが——私共の近所に、とても可愛い顔をした女の子がいた。私は、その子の顔が大好きだつたのだが、或る時浮世絵を漁つていたら、その女の子そつくりの顔にぶつかつて、ハッと驚いてしまつた。その浮世絵には、榮昌と記されてあつた。それから、私は浮世絵を漁るたびに、榮昌の顔にめぐり会ふのを樂しみにするようになった、そして、榮昌えがく顔は、はつきりと自分のあたまにやきつけられてしまつた。

その結果として、他の作家一人一人の顔立ちと、榮昌の顔とどう違ふかという、相違点が自然と分るようになった。つまり、榮昌の顔を物指しとして、他の二十人ほどの類を覚えたわけである。別段、計画したわけでもなかつたが、こういう「物の覚え方」もあるものだナと、今でも、

時折り思い出しては、ひとりおかしく思つているのである。(ただし、今は、榮昌より、もつと好きな作家が出来てしまつている。このことは、なんだか、榮昌の美人にすまないうような気がしたりする。)

◇ 浮世絵は、概して婦人の姿が多く、また花街の女の図などもあるので、幼稚園の先生方には不用のものにも思われるが——しかし、先日も或る外人に会つたら、お能、カブキ、お茶から浮世絵まで、実によく研究されているのに感服したので、わが日本のものである以上、やはりすこしでも興味を持たれた方がよろしいと思つて、拙文で誌上を汚した次第である。

